

香川 ACLS^{注1} 勉強会パワーアッププロジェクト

代表者 武 知 寛 樹 (医学部医学科5年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、香川大学生、そして地域の住民の方々に救命処置法を広く普及させる為に活動している ACLS 勉強会の内容の底上げをするプロジェクトです。

目的は1、9月18日カーフリーデーに丸亀町商店街で行われるイベントへの出展、香川大学医学部や香川県立保健医療大学の学祭での出展、地域のガールスカウトでの講習会の開催など、地域の方々を対象に蘇生法を伝えに行くことで地域全体の救命活動への関心を高めるきっかけを作ること。2、医学生に心停止の患者の病院外、病院内での初期対応を ICLS^{注2}講習会で伝えていくことで、どの診療科に進んでも生涯遭遇する可能性のあるこうした状況で適切な行動ができる医者になれるようにすること。3、低学年に積極的にインストラクターを任せ、プレゼンテーション能力を磨く場にする。4、夏に開催の全国医学生 CPR^{注3}甲子園に出場することで、普段の勉強会からも胸骨圧迫の練習をし、より適切な手技を身につけ、そして周囲に伝えられるようにすること。5、活動内容に怪我の対処など、いままで勉強会であまり取り上げてこなかった分野を取り入れることで、さらに勉強の質を深めることの5つです。

概要は、夏季 ICLS 講習会、市民向け BLS^{注4}講習会を開催し香川大学生、地域の住民の方々に救命処置法を広く普及させる為の活動を実施するとともに、広島県呉市で開かれる救急医学会主催の CPR 甲子園に出場し、より適切な手技を身につけ、そして周囲に伝えられるようにすることです。

2. 実施期間（実施日）

平成28年5月1日から 平成28年12月10日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では学内外で7つのイベントを開催、参加してきました。

①学内向け ICLS 講習会の開催

7月24日、医学生を対象に学内で開催し、医学生16名の参加がありました。この講習会では心停止で病院に搬送されてきた患者にどのような処置を行うかを説明しました。具体的には気管挿管の方法、モニター付き除細動器の安全で適切な使用方法、主な心電図波形の読み方、原因検索のアプローチの仕方などについて、一日がかりで実際に

人形を用いながらロールプレイ形式で行いました。

参加者のアンケートからは普段大学では扱わない内容で大変刺激を受けた、心肺蘇生法にとっても興味を持ったなどの声を頂きました。



(講習会の参加者、スタッフ全員での集合写真)

②呉共済病院での CPR 甲子園中四国大会の出場

8月27日に呉共済病院で開催された、CPR 甲子園中四国大会に有志5名が参加しました。この大会は全国の医学生が胸骨圧迫と人工呼吸の精度を競い合う大会です。この大会に出場するにあたり、胸骨圧迫や人工呼吸のトレーニングを学内で何度も積むことで、技術の精度が上がりました。

結果は個人の部で医学科5年の中谷が2位の成績をおさめ、団体では6校中3位でした。また大会を通して、他大学の学生とも交流を深めることができました。



(CPR 甲子園中四国大会出場者全員との記念写真)

③丸亀町グリーンでの市民向け BLS 講習会の開催

9月18日に丸亀町グリーンにて美術館通北診療所のスタッフの方々と共同で市民向けの BLS 講習会を開催しました。約100名の一般の方に AED の使い方や胸骨圧迫の正しい行い方、心停止で倒れた人を目撃した時の対応を伝えました。



(美術館通北診療所のスタッフの方々と)

④⑤香川大学医学部祭、県立保健医療大学祭での市民向け BLS 講習会開催

10月8、9日に香川大学医学部祭で行った講習会では2日間で約400名、10月22日に行われた県立保健医療大学祭では1日で約60名の来場者に心停止で倒れた人を目撃した時の対応を伝えました。香川大学医学部祭での講習会ではアンケートを実施し、講習会の理解度を確認したり、今後他に取上げて欲しいことを調査したりしました。その結果、人形を使った体験型の講習会の形式を分かりやすく感じている方がとても多いことが改めて分かりました。また一般的な怪我の対処、特に小児の怪我の対処について多くの方が勉強したいと思っていることが分かり、今後の活動を見直すきっかけとなりました。また多くの方から、応援の言葉をいただき、毎年楽しみにしてくださっている方がいらっしゃることも分かりました。



(県立保健医療大学祭での講習会の様子)

⑥⑦屋島のぞみ幼稚園、青年センターでの子供を対象とした救急処置の講習会の開催

11月26日に屋島のぞみ幼稚園で8名の小学生を対象に突き指や、ねんざ、火傷などの怪我の処置と胸骨圧迫や AED の使い方などを習得してもらう講習会を開催しました。この講習会の開催にあたっては、声をかけてくださったガールスカウトのスタッフの方々や、高松大学の学生と子供に楽しみながら分かりやすく勉強してもらうための内容を検討しました。

そしてこの講習会での内容をさらに改善した上で12月10日に青年センターで小学生約50名を対象に講習会を開催しました。ガールスカウトのスタッフの方々や高松大学の学生のサポートもあり、大盛況でした。後日保護者の方からとても良かったという感想をメールで頂きました。



(青年センターでの講習会の様子)

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

勉強会に所属する学生にこのプロジェクトが与えた効果として一番大きかったものは、学生自身に地域の救急医療への関心が育まれたことだと思います。実際に街頭で一般の方々に蘇生法を教え、その方々の生の声を聞いたことで、多くの参加した学生が充実感を感じていました。そしてもっと勉強し、練習することで正確で最新の知識をお伝えできるようになりたいという、モチベーションの向上につながりました。

特にまだ臨床の講義が始まっていない低学年の学生にも積極的に関わってもらうことで、その後の学内での勉強全体のモチベーションを上げる効果もあったと思います。

夏季 ICLS 講習会に参加した受講生（学内の学生）のアンケートからは、普段の講義と違い、体を動かしながら、人形を使って行うシミュレーション学習により、とても刺激され、蘇生法に興味を持ったという声が多くあがりました。そして講習生の中から数名がこの勉強会に加わってくれるようになり、秋以降の活動で教える側として参加して頂きました。このように勉強会の活動を通して、救命救急処置に興味を持った学生がさらに他の学生を巻き込むという良い循環が生まれているように感じています。

地域の方々に与えた影響としては、学内外で行われた4つのイベント（丸亀町グリーンのイベント、香川大学医学部祭、県立保健医療大学祭、ガールスカウトとの子供向けのイベント）を通して大人から子供まで幅広い年齢層の方々に蘇生方法を伝授することができました。今年度合計延べ600名以上の地域住民に参加して頂くことができました。これらのイベントは地域の方々が蘇生方法を学ぶ一助になったのではないかと思います。

学祭のアンケート結果では、一度別の講習会で知識だけはあったものの、しばらく行わない間に忘れてしまい、よい復習になったという意見も多く頂きました。毎年学祭での講習会を楽しみにされている地域の方も多く、教えた人数だけではなく、こうした活動を継続的にを行うことの重要性を改めて感じました。



(学内での学生向けの勉強会の様子)



(学祭での一般の方への講習会の様子)

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

4.でも挙げさせて頂きましたが、普段学内の勉強では地域住民とやりとりしながら活動することがほとんどなかったため、実際に街頭での活動によって地域の方々とふれあえたことが自分たちにとっても大きなやりがいを与えてくれました。そしてそうしたやりがいだけでなく、一般の方々が聞いても分かるように説明できるように練習し、実践することでコミュニケーション能力も養われたと思いました。実際に将来医療関係者として働く時にも患者に分かりやすい言葉で情報を正確に伝えることは大事なスキルであると思います。

今回初めての試みとして子供にも蘇生法や怪我の処置を伝えたのですが、目の前の子供が理解し、そして飽きないようにするにはどのように伝えれば良いか、色々と企画内容も工夫をしました。本番前に幼稚園で試験的に講習会を開き、その時の様子を反映して高松大学の学生やガールスカウトのスタッフの方々と話し合うなど会話能力だけではなく、対象者に応じた企画を考え実行する力もつき、非常に良い経験となりました。



(丸亀町グリーンでの講習会の様子)



(青年センターでの講習会の様子)

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点としては、記述式のアンケートを取ったのですが、数値化して客観的に把握する材料にすることが難しかったため、今後一部は5段階評価で答えてもらうなどアンケートの内容を工夫したいと思います。

救命処置はある日突然目の前で倒れた人に対して行う事が求められるため、繰り返し学習することで身に染みこませる必要があります。今後も継続的に活動が続けることで地域の方々により蘇生法が浸透するように努力したいと思います。

一連のプロジェクトを通して、当初考えていたよりも多くの地域の方々との交流をすることができました。特に企画の準備、実行にあたって、町中の診療所のスタッフ、ガールスカウトのスタッフ、県立保健医療大学や高松大学の学生など、普段関わらないたくさんの方と一緒に仕事をできたことにとってもやりがいを感じました。また地域の方々から講習会終了後に直接声をかけて頂いたことや、ホームページへのメールを通して、応援の言葉を多く頂きました。これからも地域の方々のニーズをくみとり、期待に応えられる活動を続けていきたいと思います。

このプロジェクトを支援していただき、本当にありがとうございました。

7. 実施メンバー

代表者	武知 寛樹（医学部医学科5年）	
構成員	中谷 元（医学部医学科5年）	白井 祐介（医学部医学科5年）
	大谷 理美（医学部医学科4年）	竹澤 悠介（医学部医学科4年）
	矢野 敏明（医学部医学科3年）	栗田 尚代（医学部看護学科3年）
	小郷 瞳（医学部看護学科3年）	敷田 裕衣奈（医学部看護学科3年）
	石井 宙生（医学部医学科2年）	大口 剛史（医学部医学科2年）
	小田 楓太（医学部医学科2年）	片山 大奨（医学部医学科2年）
	亀井 美里（医学部医学科2年）	高島 堯（医学部医学科2年）
	冨谷 紘加（医学部医学科2年）	馬越 隆光（医学部医学科2年）
	舟木 大地（医学部医学科2年）	伊藤 翔吾（医学部医学科1年）
	瀬戸 要（医学部医学科1年）	春名 佑衣子（医学部看護学科1年）

注1 ACLS Advanced Cardiovascular Life Support 病院等の医療機関等における救命救急における心肺蘇生法のこと。アメリカ心臓病協会（AHA）の作成したガイドラインに基づく。

注2 ICLS Immediate Cardiac Life Support ACLS を基に日本救急医学学会が作成した心肺蘇生法のこと。突然の心停止に出会った時にどのように対処すべきか、というコースの学習目標に基づき、ICLS コースとして医療関係者を対象にした勉強会が全国で開催されている。香川大学 ACLS 勉強会では香川大学医学部附属病院救急救命センターの監修の下で、学内で学生を対象に ICLS コースと同じ内容の勉強会を開催している。

注3 CPR Cardio Pulmonary Resuscitation 呼吸が止まり、心臓も動いていないと見られる人の救命へのチャンスを維持するために行う循環の補助方法のこと。胸骨圧迫を主に行い、熟練者は呼吸の補助方法である人工呼吸も行う。CPR 甲子園とは全国の医学生を対象とした、胸骨圧迫と人工呼吸の精度を競いあう大会であり、2015年から毎年開催されている。

注4 BLS Basic Life Support 一次救命処置の略称。一次救命処置とは、急に倒れたり、窒息を起こしたりした人に対して、その場に居合わせた人が、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う応急手当のこと。